

漁海況情報第4報 (2012年7月5日発行)

宮城県水産技術総合センター

連絡先：0225-24-0159

※本報は「<http://www.pref.miyagi.jp/mtsc/>」でも公開中です。

1. 海況

表面水温、100m深とも平年よりも0~2℃高めとなっています。

宮城県沿岸の表面水温は18~21℃となっています。平年と比較すると仙台湾は概ね平年並み、141°E以東の海域では、先月よりも3~6℃昇温し、平年より0~2℃高めとなっています。

100m深水温については、調査点全域で8~9℃台となっています。平年と比較すると、0~2℃高めとなっており、先月観測された5℃以下の水温は観測されませんでした [P1.水温水平分布図] [P1.水温平年偏差図]。

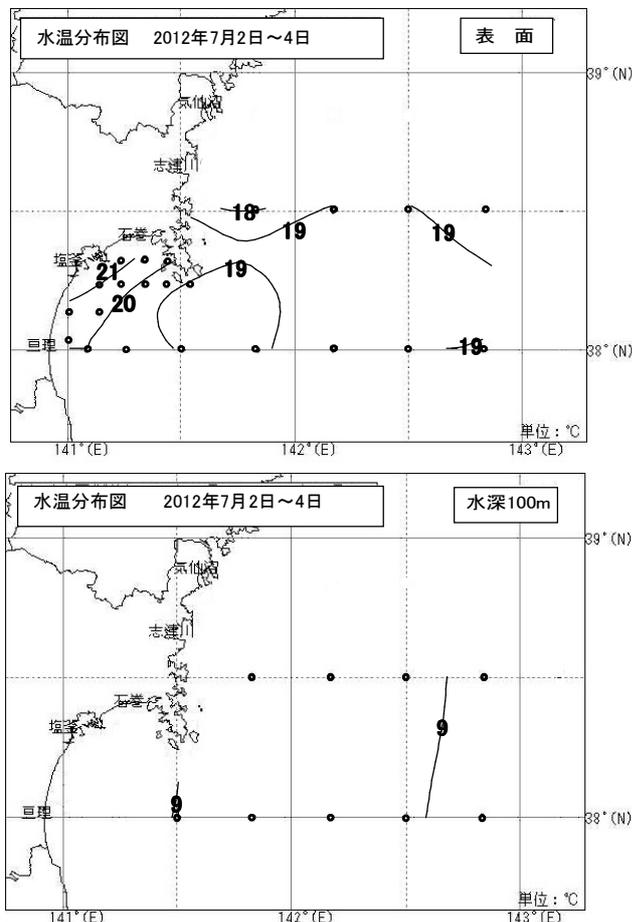
水温鉛直断面図をみると、38°N及び38°30'Nラインとも水温成層が形成されています [P2.水温鉛直断面図]。

(社) 漁業情報サービスセンター配信の東北海域漁海況情報によると、北上暖水が勢力を増し、144°E以西の海域が広く暖水に覆われています [P2.東北海域の海況図：(社) 漁業情報サービスセンター]。

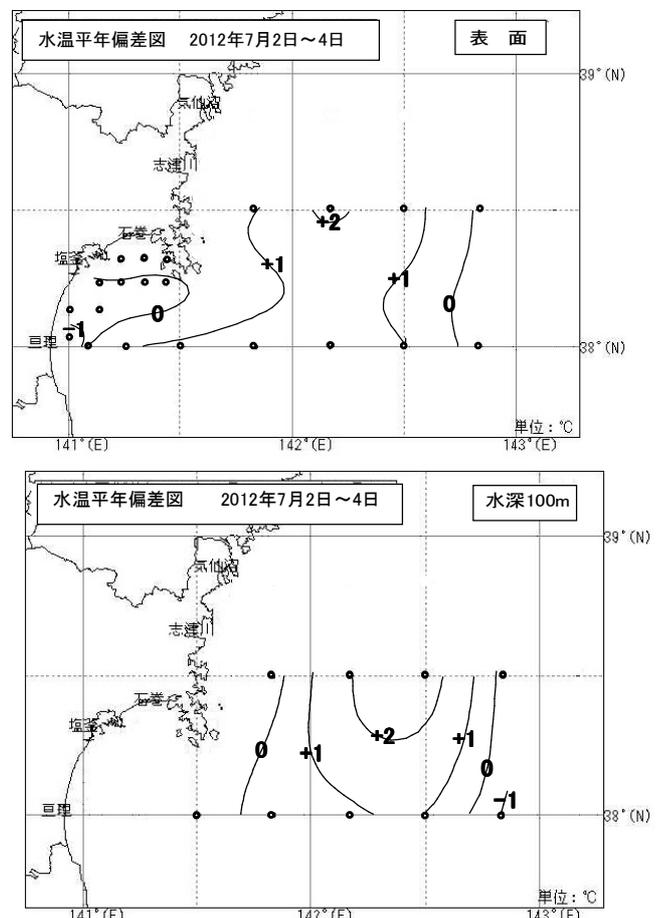
6月下旬の定地水温は、岩井崎でやや高め、江島と佐須浜は平年並みとなっています [P2.定地海洋観測結果]。

底層水温については、3~11℃台となっています [P3. 底層水温図]。

・水温水平分布図

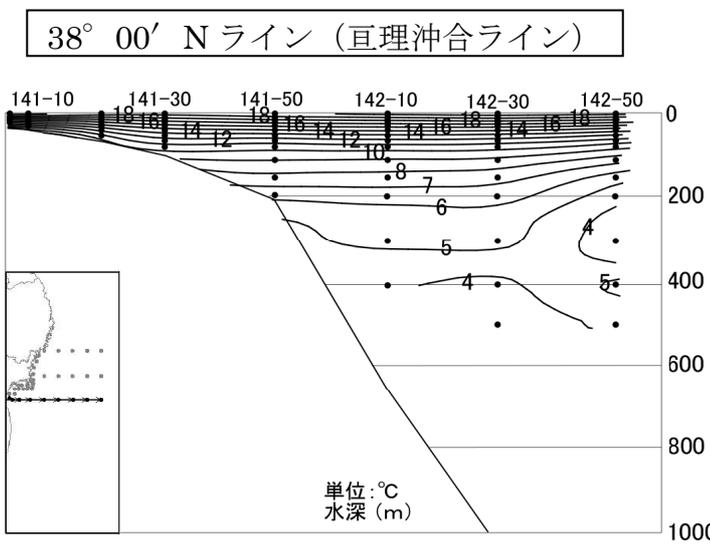
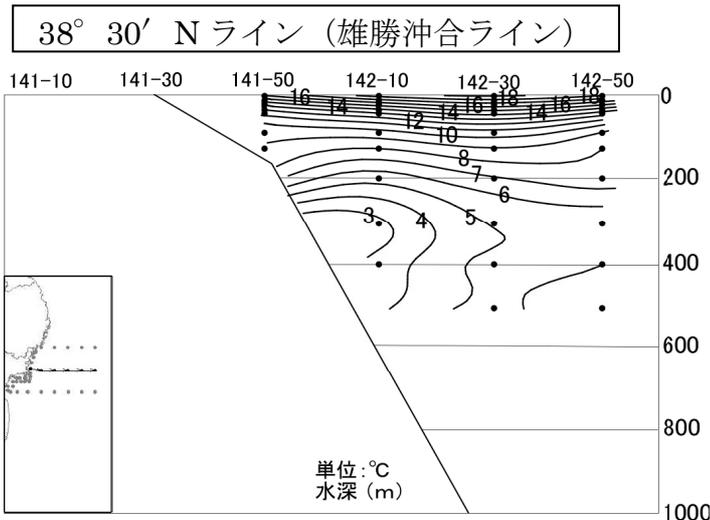


・水温平年偏差図 (現在水温と平年水温との差)

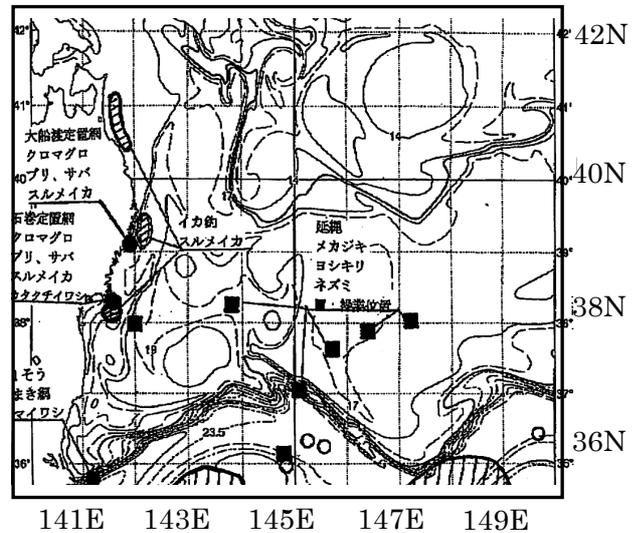


※ 観測は拓洋丸と翠皓 (東北大学から借用) が実施しました。

・水温鉛直断面図



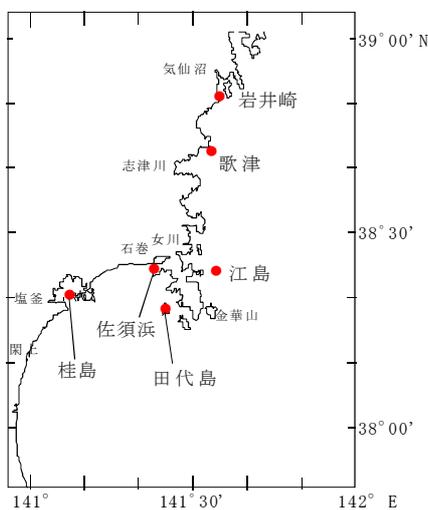
・2012年7月2日の東北海域の海況(表面水温)
(社) 漁業情報サービスセンター



特記事項 (社) 漁業情報サービスセンター

- ・勢力を増した北上暖水は常磐から青森の沖合を通過して襟裳岬の西側に達し、144° E 以西の海表面は広く暖水に覆われている。
- ・暖水の北上に伴ってまき網船によるカツオの漁獲が本格化し、釣りスルメも日増しに水揚げを伸ばしている。

・定地海洋観測結果 (°C)

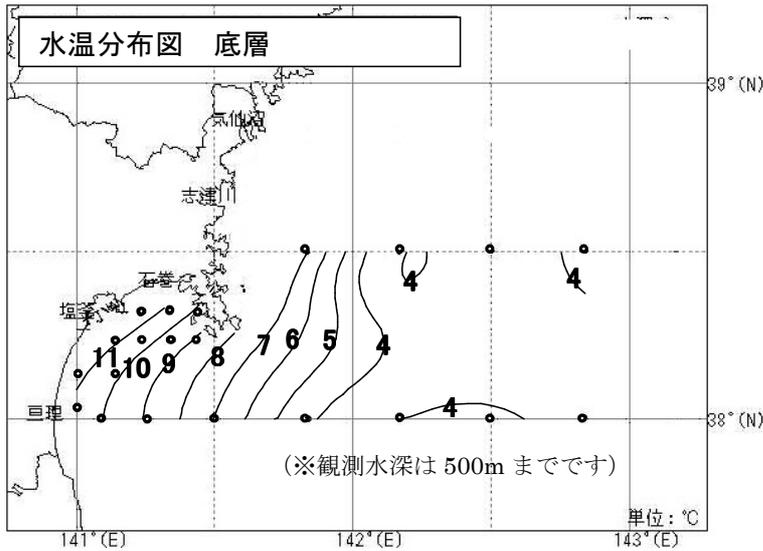


観測点	6月下旬		平年差	前年差
岩井崎	16.3	(やや高め)	+0.5	+0.2
江島	13.6	(平年並み)	0	-2.9
佐須浜	18.8	(平年並み)	0	-0.7
桂島	20.6	-	-	-

※歌津と田代島は自動観測装置による観測を中断しています。
 ※平年差 岩井崎、江島 (30年)
 佐須浜 (10年)
 桂島 (平成24年2月から観測開始)

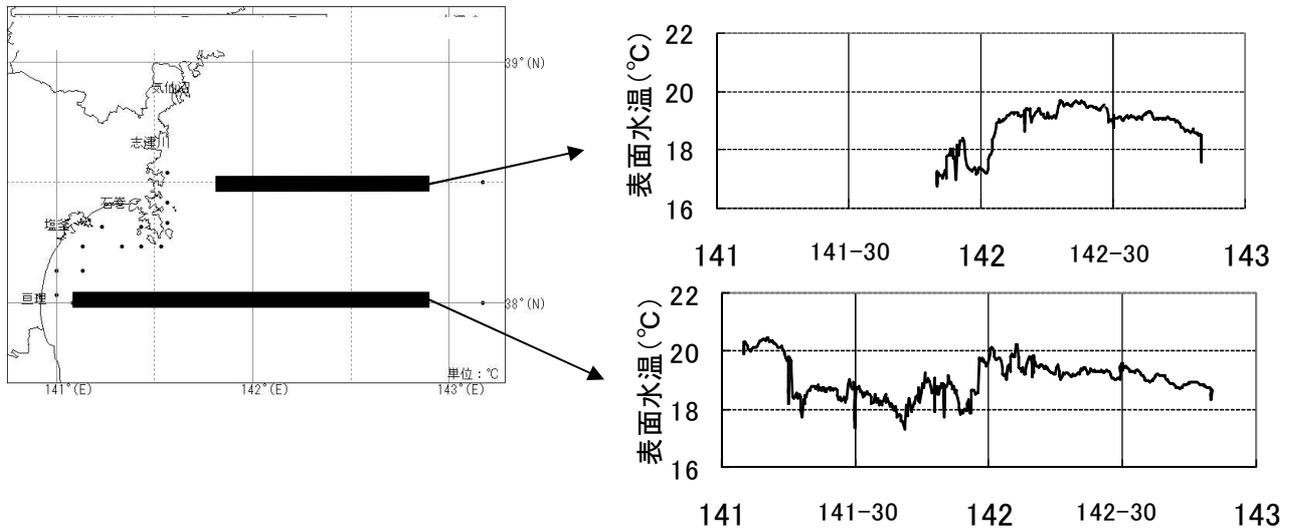
・底層水温図

・底層水温(2012年7月2日～4日)



2. 表層水温情報

拓洋丸に搭載している「表層モニタリングシステム」で取得した航走表面水温は、下記のとおりです。



3. 漁況

平成22年比でマイワシとサバ類の定置網による水揚げが多くなっています。

主要魚種の県内10魚市場水揚げ量(集計期間:2012年6月1日～6月30日)

魚種	沖底	小底	旋網	定置網	刺網全漁法	沿岸イカ釣り	延縄	大目流し網	一本釣り	その他	総計	平成22年比(%)
スルメイカ	226			24		2				2	253	11
マイワシ				123						1	124	2,666
カタクチイワシ				261						5	266	28
カツオ			1,157						14	8	1,179	43
サバ類	0			309	1					1	310	1,680
クロマグロ				42			0	2		3	47	69

※ 宮城県総合水産行政情報システムによる集計

4. 調査船運航計画

拓 洋 丸	
7 月 9 日	計量魚探キャリブレーション
7 月 10 日	イカナゴ成魚調査
7 月 31 日	沿岸定線調査

翠 皓(東北大学から借用)	
7 月 5 日	マアナゴレプト調査
7 月 10 日	仙台湾定期水質調査
7 月 23 日 ~ 27 日	東北マリンサイエンス調査
7 月 30 日 ~ 31 日	浅海定線調査

平成 24 年度カツオ長期来遊資源動向予測 (6 月～11 月)

平成 24 年 6 月 26 日付けで、「平成 24 年度カツオ長期来遊資源動向予測 (6 月～11 月)」が出されました。予測内容の内、来遊資源量について、以下に示します。なお、詳細は水産庁のホームページをご覧ください。<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/120626.html>

来遊資源量

これまでの調査結果から 5 月上旬から 6 月上旬の竿釣り CPUE(1 日 1 隻あたりの漁獲量)と 6 月以降の常磐・三陸沖の CPUE に有意な相関関係が見られることから、この関係を用いて本年の常磐・三陸沖の 6 月以降の来遊資源動向について予測を行ったところ、昨年水準及び平年(：過去 10 年間の平均値)を下回り、ほぼ 2009 年レベルであると予測されました (図)。

なお、2011 年の中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC) 科学委員会においては、中西部太平洋のカツオの資源量は高位、資源動向は減少傾向と評価されました。また熱帯域における高い漁獲はカツオ資源の分布収縮を招き、高緯度海域における利用が難しくなる懸念が指摘されました。

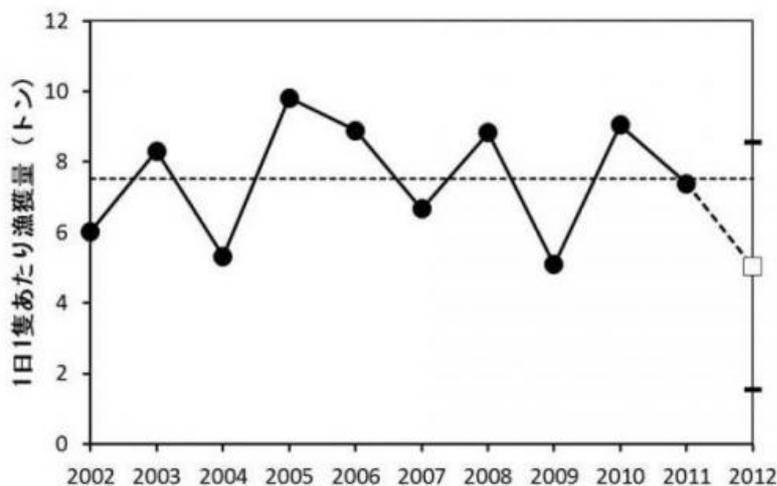


図 過去 10 年間の 6 月～11 月の近海竿釣り船による CPUE 及び予測された 2012 年の CPUE 水準。図中の点線は過去 10 年間の平均値 (2002 年～2011 年)、横棒は 95% 予測区間を示す。